
ゴリオ・ゴリオ・ブルース

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴリオ・ゴリオ・ブルース

【コード】

N9918X

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

ごあああああああがやりたかっただけという。短いので、あとで書き足します。

ざああああああああああああ。

雨は陰鬱になる。作者はてるてる坊主とタバコをすいながら話をする。

「お前、ちゃんと仕事してんのかよ」

「そうはいったって、ライスさん。低賃金だから成果を出すのは難しいっすよ。アルバイトのライスさんなら痛いほど解るでしょうに」

「まあねえ……」

ざああああああああああああ。

ゴリオは、部屋で、宿題をしていた。いつもなら、友達と野球をしているところだが、この雨では仕方がない。

しかし、円周率 というのは、やばいことである。 。 つまり、パイ。シモネタが浮かんでしまう。

「はあ……ロリ華ちゃん……」

ゴリオは同級生のロリ華に恋をしている。

「ロリ華ちゃんの……」

ざああああああああああああ。

ゴリオは、ティッシュを丸めて、ゴミ箱に捨てた。しばらくすると、雨がやんできた。

「よし。宿題終わったぞ。うほうほ」

ゴリオは、両手で、胸を叩いた。

「ロリ華ちゃんの家にも行くか」

ゴリオは自転車に乗って飛ばした。二丁目にロリ華の家がある。ロリ華の家に到着し、ゴリオは、二階を見た。電気がついてる。

ということ、ロリ華ちゃんはいるんだ。

急に雨が降ってきた。

ざああああああああああああ。

ゴリオはびしょ濡れになってしまった。

「帰ろう」

ゴリオは自転車に乗り、飛ばした。

ゴリオは書店に寄った。

フランスの作家、バルザックの「ゴリオ爺さん」を手にとる。自分の名前と同じだったので興味がわいたのだ。

「ふうん。再登場技法かあ」

ゴリオは、しかし、ともかく、身体が寒くなってきたので、立ち読みを中断し、書店を出た。

ざああああああああ。

ざああああああああ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9918x/>

ゴリオ・ゴリオ・ブルース

2011年10月28日16時06分発行